



古津森宮の傍らで山桜が咲き誇っていました



町指定文化財の一つ、古津森宮の石造物

向地区の人たちの尽力により復旧しました」と話すのは、町生涯学習課学芸員の森本星史さんです。昔から守り伝えてきたことを大切にする地域の人たちの思いこそが、古津森宮や千光寺の文化財としての価値を高めているのではないのでしょうか。

山の恵みがもたらす暮らし

北向地区でシイタケを栽培する森島敬二さんは、熊本県椎茸農業協同組合主催の生椎茸品評会で毎年上位入賞を果たすほどの実力者です。11月から3月にかけて収穫される森島さんのシイタケは肉厚で、表面や裏のヒダが白つぼくくて美しい色をしています。木々の間からほどよく注ぐ光と、山の澄んだ湿度が質の高いシイタケを育てるのだからです。

13年前に古里にUターンした森島さん。「20代でここを出て、大阪でサラリーマンをしていましたが、都会より住み慣れた古里で暮らす方が、心が豊かになれると思ったんで

生まれ育った古里で、自然体の暮らしを満喫している森島さん



す」と話します。

妻の範子さんと2人の子どもと4人で暮らす森島さんが自らが建てたという自宅は、とてもおしゃれな設計。「朝から鳥のさえずりを聞きながら飲むコーヒーはおいしく、ここは子どもたちを育てるのにとてもいい環境です」と笑顔をほころばせました。



北向地区の山中で森島さんはシイタケを栽培しています



森島さんが栽培するシイタケは、肉厚で風味が香ります

散歩の終わりに

久しぶりに歩いた上陳・下陳、北向地区。前回の表紙を飾った、下陳地区の民家の石垣の光景も全く変わっていません。時はせわしなく進むけれど、変わらずにある古里の景色に心が安らぎます。

小路猛さんとのうれしい再会や、貴重な文化財に触れながら春の温もりに包まれた一日でした。千光寺参道の桜も見頃です。おにぎり片手に散歩に出かけてみてはいかがでしょう。

